

知事記者会見の概要

日 時：令和8年1月15日（木） 10:00～10:34

場 所：502会議室

出席記者：14名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) クマ対策について

フリー質問

- (1) 衆議院の解散について
- (2) 衆議院総選挙について
- (3) 「おこめ券」について
- (4) 陸羽西線の運転再開について
- (5) 飛島の定期船の長期欠航について

<幹事社：河北・共同・TUY>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

「冬来たりなば春遠からじ」という言葉がありますけれども、まだまだ寒い日が続きますので、県民の皆様にはくれぐれもご自愛いただきたいと思います。

県内の今冬の雪による被害状況であります、昨日までに 11 名の負傷者が出ております。

屋根や梯子などからの転落といった雪下ろしが要因となっているということでもありますけれども、雪下ろしを行う際には、命綱やヘルメットを着用する。そして、二人以上で作業を行うなどの安全対策を行っていただきますよう、よろしくお願いいたします。改めてお願いしたいと思います。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

はい。河北新報の八木と申します。よろしくお願いいたします。

今回、クマ対策について質問させていただきます。環境省のホームページなどによるとですね、2025 年、昨年クマの法律が変わってからの緊急銃猟の実施件数について、全国で最も多い都道府県というのが山形県の 16 件ということです。

山形県としてはですね、この要因はどういった部分にあると分析しているのかということと、それに付随して、昨年、山形県で「緊急銃猟タスクフォース」ということで、各市町村長に制度を説明するといった中で、そういったこともこの件数に現れているのかなと思います。市町村長に説明を進める中で、効果や手ごたえ、タスクフォースに関して感じている部分があれば教えていただきたいなと思います。

知事

はい、それではお答え申し上げます。

まず、緊急銃猟についてであります。緊急銃猟については、1 月 9 日現在で、本県では 16 件実施されております。都道府県別で最多となっております。

「緊急銃猟」は、市町村長の判断で行われますが、銃猟を行う猟友会、住民の避難誘導や交通規制などを行う警察をはじめ、関係者との密接な連携、協力がなければ実施できないものであります。数多く、かつ安全に実施されているということは、市町村で、こういった連携・協力体制がうまく構築されているおかげだというふうに考えております。

また、こうした体制構築につきましては、「緊急銃猟タスクフォース」も役立ったと考えております。これまで県と県警が一緒に、14 の市町村長と直接、意見交換・相談対応を行いました。具体的な事例研究などで制度の理解を深めていただくとともに、警察の手厚いバックアップ体制についても説明したところであります。

安全かつ円滑に緊急銃猟を実施するためには、制度を正しく理解するといったことに加え、実際の現場での関係者の緊密なコミュニケーションがとても重要でありますので、市町村と県、警察でお互いに顔の見える関係が築かれたことは、重い責任が伴う市町村長の不安解消につながったのではないかと考えております。

そして、今年に入ってからのカマの目撃件数は1月11日時点で9件でありました。少なくなつたところであります。現在発令している「カマ出没注意報」は本日までといたします。ですが、春にはカマの活動が活発になることも考えられますので、早期の対策が重要であります。

昨年11月に取りまとめた「山形県版カマ被害対策パッケージ」に基づき、着実に取り組みを進めてまいりますが、春に向けては、まず、猟友会と連携して、カマの春季捕獲を強化するということに取り組みます。活動が活発になる春に捕獲数を大幅に増やすことで、市街地への出没の抑制を図るとともに、猟友会員がチームで活動することで、ベテランから若手に技術を伝承してもらって、人材育成につなげます。

また、市町村と連携し、出没情報の即時性の向上に向け、アプリを活用して、出没情報の速やかな発信に取り組みます。目撃から情報発信までの時間が大幅に短縮されますので、迅速な出没状況の把握と、適時の注意喚起につながるものと考えております。

県としましては、猟友会や市町村等と緊密に連携しながら、春に向けた対策にしっかりと取り組みますとともに、「中間支援組織」の設置に向けた議論を進めるなど、中長期的な課題にも危機感を持って対応し、県民の皆さまの安全・安心の確保に努めてまいります。

記者

ありがとうございます。

今、春に向けての対策ということで、アプリですとか、春に捕獲を増やすという、そういう計画などのお話、あったかと思うんですけども、その他には何か具体的に考えてらっしゃることってというのはございますか。

知事

そうですね。春季捕獲強化と、アプリ活用して出没情報の即時性向上といったことを担当から聞いているところであります。

記者

じゃあまた、それ以外はまだ何か状況が変わったら、またいろいろ考えていくような、といったところなんでしょうか。

知事

そうですね。事態をしっかりと確認しながら、的確に対応していきたいというふうに思っ

ております。

☆フリー質問

記者

朝日新聞、斎藤です。よろしくお願いします。

高市総理大臣が 23 日の通常国会冒頭で、衆議院を解散するという報道がされています。国の新年度予算案の審議を控えている大切な時期であり、また、地方自治体にとっても、新年度予算編成とか、3 月議会の準備など、非常に多忙な時期での解散総選挙となります。

山形県としては 2 月 8 日の投開票ということで、真冬の選挙ということで、なかなか外に出るのも難しいような状況の中での選挙ということで、この時期の解散総選挙について知事の所感を伺えればと思います。

知事

はい。先週、金曜日ですかね。私、啓翁桜をお届けしに行きましたので、その後の報道ということで大変驚きました。

ですが、私が官邸から出てくるときに、大阪府の吉村知事が入ってきたんですよ。それですれ違ったので、「あれっ」と思いまして、「何かあるのかな」というようには思っておりませんでしたので、「そのことだったのか」と後で思い当りました。本当に政治は生き物だなというふうに思いました。

この衆議院の解散というのは総理の専権事項ということなので、私から特にそのことについてコメントすることはございません。

ただ、地方自治体としましては、新年度の予算編成は大変重要でありますので、政府の 2026 年度予算の早期成立、できるだけ早く、早期に成立することを望むものであります。

あと、雪国でありまして、山形県知事選挙というのは 1 月で、本当に冬は大変な選挙だと思っております。さらに、一番寒い時期の選挙だなということで、本当に選挙に行く方々も大変でありますし、また準備をする市町村の選挙管理委員会も本当に大変だろうなというふうに思っております。怪我のないようにと言いますか、本当に慌ただしい中での選挙でありますけれども、持ち場持ち場でやはりできるだけ健康に気をつけながら活動していただきたいというふうに思っております。

記者

はい、ありがとうございます。この時期の解散総選挙については、千葉県の知事はじめ、全国の首長から反対の声も上がっています。そもそも解散権自体を疑問視するような意見も出ていますが、知事としては、この解散総選挙については、より踏み込んだような発言というのは。

知事

そうですね、特に申し上げることはないんですけど、ただ本当にこの予算成立してからだと良かったのにな、というような思いはございますけれども、まず肅々と県としての年間で一番忙しい時期でもありますので、しっかりそのことに対処していきたいというふうに考えております。

記者

ありがとうございます。もう1点だけお願いします。

政府の重点支援地方交付金を活用した物価高騰対策として各市町村さまざまなメニューを今、検討中かと思えます。山形県の35市町村に取材したところですね、プレミアム商品券など幅広い商品に使えるようなものの配布ということを検討している市町村が多いことが私どもの取材で分かりました。

山形選出の鈴木農林水産大臣はですね、おこめ券を推奨していたかと思うのですが、なかなかあまり人気がないと言うか、使い勝手が悪いような、そういうこともあって採用する自治体は少ないように思えます。知事としては、こういった形で住民への支援策というものがなされるのが望ましいというふうにお考えでしょうか。

知事

政府の令和7年度補正予算に、おこめ券の活用を含む、食料品の物価高騰対策が盛り込まれました。これは、お米をはじめとする食料品の価格高騰に対して、家計への負担軽減ということの支援と受け止めております。それで、県としましても、各市町村が取り組むプレミアム付き商品券などに対して、県民1人あたり1,000円くらいと承知をしておりますが、12月補正で予算を措置いたしまして、物価高騰の影響を受けている県民への支援を行うこととしております。

おこめ券についてはですね、米価が高止まりしている中、生活支援という面で大きな意義があると思っております。米の購入・消費拡大に一定の効果が期待できるのではないかなというふうに思っております。

県内の自治体の対応ですけれども、長井市と尾花沢市が、おこめ券を配布するという報道を拝見しております。こういった物価高騰対策の実施主体は市町村でありますので、おこめ券の配布や、プレミアム商品券の発行など様々な方法から、地域の実情に応じて、適切で効果的な方法をご判断されるのが望ましいと考えております。

記者

読売新聞の中戸と申します。

陸羽西線再開に関する所感を伺います。

明日、16日再開するということですので、知事は山形新幹線の庄内延伸にも前向きな考え

を持っているというふうに承知をしているのですけれども、まさに延伸時に使われる陸羽西線がようやく再開するというので、それについての受け止め、所感をまず伺わせてください。

知事

はい、分かりました。

陸羽西線につきましては、国交省が実施している国道47号高屋道路（仮称）高屋トンネルの工事、施工に伴い、全線の運転を取りやめ、令和4年5月からバスによる代行輸送が実施されておりました。

令和4年5月以来、3年8か月ぶりに明日16日から陸羽西線の運転が再開され、運休前と同様に、新庄～余目駅間を1日5往復、新庄～酒田駅間を1日4往復運行されるとのことで一安心しております。

県としましては、JR東日本や市町村、経済界、関係団体等で構成する「やまがた鉄道沿線活性化プロジェクト推進協議会」を中心に、運転再開後の陸羽西線をより多くの方々に利用していただけるよう、関係者一丸となって沿線の活性化に取り組んでまいりたいと考えております。

記者

ありがとうございます。まさに今、より多くの方に乗っていただけるようにというようなお話がございました。実際、陸羽西線はちょっと利用者が少ないという、廃線になるのではないかなという話もあったと認識をしておりますが、まさに利用者を増やす対策として、今何か考えていることがありましたら伺わせてください。

知事

さまざまな記念イベントがあると聞いています。まずはですね、陸羽西線の運転再開にあわせて沿線の最上・庄内地域で記念イベントを開催するというのであります。先月の24日の記者会見でもお伝えいたしましたが、再開初日となる明日16日には、新庄駅と余目駅などで、地域住民等による見送り出迎えを実施する予定です。また、18日日曜日には新庄駅で、翌週25日日曜日には酒田駅でさまざまな企画を実施するということとしております。さらに今年の7月から9月にかけては、県・市町村及びJR東日本が連携して庄内エリアにおいて夏の観光キャンペーンを実施する予定です。陸羽西線を内陸エリアと庄内エリアを結ぶ重要な移動手段として位置づけ、交流拡大に向けた取組みを進めてまいります。

陸羽西線の利用促進にあたりましては、こうした観光面の利用活性化に加え、地域の暮らしを支える公共交通としての利便性向上も重要であります。交通事業者・行政・関係団体等が連携し、駅からの二次交通の充実、マイレール意識の醸成など、複合的な取組みを進めることで、地域の活性化と鉄道事業の発展の双方を実現していきたいと考えております。

す。

記者

NHKの内藤です。よろしくお願いします。

解散の関係なのですけれども、通常国会の冒頭に解散が行われて、仮に1月27日公示、2月8日投票の日程になりますと、準備期間が極めて短い異例の選挙になるのかなというふうに思うのですけれども、選挙の執行についてのほうで何か懸念、たとえば投票所や開票所の確保ですとか、ポスター掲示板の設置ですとか、いろいろ実務面での、市町村が行っていくことになると思うのですけれども、課題もあろうかなと思うのですが、選挙の執行の部分で懸念点とか心配されている点ありましたら教えていただければと思います。

知事

そうですね、私も何回も冬の選挙を行ってきました。それで、雪国でありますので、まず看板の設置。設置してポスターを貼って、雪で見えなくなっちゃったりすることがあって、あれをどうしていくのかなという心配が一つありますね。設置も大変だろうと、雪を掘って設置するのか、設置の仕方もちょうと手間がかかるだろうと思われる。

あとは、やはり投票に行く方々も、雪道とかちょっと凍っている道とかですね、本当に足元が悪い中を行かなければなりませんので、そこはちょっとお怪我のないように注意していただきたいなと思いますし、一方で国政選挙はずっと山形県が投票率日本一というような自負もありまして、できる限り投票には行っていただきたいと思いつつ、その足が大変だろうなという心配をしております。

記者

投票率の低下につながることにしても、ちょっとやっぱり懸念されるということですか。

知事

そうですね、この時期ですのですね。そういう心配はあるかなというふうに思っております。

記者

解散をされる理由について、連立政権の枠組みが変わりまして、それについてまだ国民の審判を受けていないということで、国民の信を問いたいというお考えのようなんですけれども、こういった理由での解散ということについての受け止めというか、御感想、御意見とかがございますでしょうか。

知事

いや、その解散ということで、そういうことはこれまでも何回もあったと思いますし、良いとか悪いとかではなくて、やはり総理の専権事項ということでありますので、そのこと自体について私から申し上げることは特にございません。

記者

TUYでございます。

酒田港と飛島を結ぶ定期船とびしまの件でございます。今朝、臨時便が無事に出航したということで、荷物の中には年賀状なども積まれていたということですが、率直な受け止めをお願いします。

知事

はい。今、紙入れがございましたけれども、今日の臨時便、8時予定が9時になって、出航して、10時20分に到着したということを今、紙入れで教えていただきました。

本当に昨年の12月24日からずっと欠航が続いているということで、これは過去最長の欠航でありましたので、私も大変心配をしておりました。まずは臨時便が無事に到着したということで、安堵しております。

冬季間はですね、定期船の運航が厳しい気象条件となりますので、島内での生活に支障が生じないように、これからも酒田市や関係機関と連携を密にして対応していきたいというふうに考えております。

記者

ありがとうございます。一方で、通常定期船の便はまだこれからの再開になりますし、住民の方からは「またこんなことがあった場合に」という不安の声なども聞かれておりますけれども、改めてその災害で孤立する可能性がある集落に対するいざという時の対策などの県としての考えを改めてお聞かせいただけますか。

知事

そうですね、自然災害というのは激甚化・頻発化しているということがありますが、飛島は本県でただ一つの離島でございますので、本当に大切な存在であるというふうに思っています。

例年、やはり冬になると、波が高くなると欠航するというようなことがございますので、酒田市でもですね、食品の備蓄といったことを考え、また、酒田市役所の方が一人、島にいらっしゃるというふうに聞いておるんですけれども（補足：正確には、飛島には市職員等が8名駐在している。会見終了後、庄内総合支庁総務企画部長が訂正した。）、それでも本当にこんなに長くなりますといういろいろなことが心配になってきますので、県と酒田市と、さらに

連携をし、島民の方とお話し合いをしながら、これからどういったことに取り組んでいくのか、ルールというようなことも話し合っていたほうがいいんじゃないかなと、今回を機にそんなことを県庁内部では話をしております。

記者

YTSです。よろしくお願いいたします。

衆院選に関連して、吉村知事の応援のスタンス等についてお伺いしたいんですけれども、これまで基本的には恩返しというようなスタンスを取られてこられたかと思います。前回の衆院選では豪雨災害からの復旧・復興へというところの恩返しというところも含めて与野党の事務所を激励に訪れたりですか、一方で、去年は特に特定の候補について応援するというようなことはせずというような形を取ったかと思いますけれども、まだ実際に候補者がすべて出揃ったりというような構図が見えていないところではありますけれども、現時点でどのようなことを考えていらっしゃるかお聞かせください。

知事

はい。本当に現時点ではまず解散の日にちもしっかりしておりませんし、候補者も明らかになっておりませんので、そういう中で私のスタンスと言われましても今は何も考えていないということになります。

でも選挙になったら大変だろうなとか、私自身の行動がですね、大変になるだろうなという思いはありましたけども、まだどうするかといったことまでは考えておりません。

記者

去年の参院選の時も後援会の方と対応をどうするかというところでいろいろ話し合われてというところだったかと思いますが、今回もそういった方々ともお話をされていろいろ対応を考えていくというそういったところでしょうか。

知事

そうですね。やはり自分一人で考えるというよりは、やはり複数の方々のいろいろなお考えをお聞きした上で考えていきたいというふうに思っています。

記者

今の、選挙の候補者への応援のお話で、ちょっと気のつくところなんですけれども、率直に前回の参院選に関しまして、知事は恩返しができたとお考えですか。

知事

そうですね、大変難しいと思います。やはり今の私の立場、数年前の立場ともまた違っ

たりして、本当にだんだん難しくなってくるというのが私の実感です。

だからそういう中でもやっぱりいろいろな方々のお考えというものを聞きながら最終的な判断で行動と言いますかね、行いましたので、やはりそれが最良と考えるしかないかなというふうに思っています。

記者

では前回の夏の参院選に関しては恩返しができたのかという点に関してはどうでしょうか。

知事

その時点でのベストを尽くしたというふうに考えていただければというふうに思っています。

この立場になりますと、もうどちらからも不満は出るのかなというふうに思っています。

記者

では今回の衆院選に関しても、またそのあたりも考えてということになりますか。

知事

非常に難しい立場でありますので、また本当にさまざまなお考えをお聞きしながら考えていきたいというふうに思います。

記者

河北新報です。

今いろいろ、選挙の質問が出たかと思うんですけども、それにまた関連するんですけども、先ほど冬場の選挙がもし開かれたらということで、冬場の選挙選になるという、そういうことになっているかと思うんですけども、先ほど選挙管理委員会さんですとか、開く部分では看板を立てるのが大変だったりとか、そういうことがあるというふうにお話があったかと思うのですが、実際に知事も選挙戦は冬に何回も出られてやってきたわけですけども、やるほうとしては冬の選挙の難しさみたいなものとして具体的にどういったところにあるとお考えですか。

知事

そうですね、やはり寒いですし、足元が悪いです。風も強くなったりもしますし、ですから選挙の準備をする市町村も大変ですし、投開票と言いますかね、投票に行く県民も大変だというふうに思います。

両方大変で、しかもこの時期でありますので、予算や人事で本当に県も市町村も忙しい時

期の中でのその選挙のお仕事というのもありますので、そういう中でやりくりして本当に御苦労されながらやっていただくということになると思うんですけど、その選挙会場というのが、例えばある広報車がここで演説をやりますと言った時に、そこへ行くのも大変なわけですよ。雪の中を行ったりね。だから本当にいろんな面で、会場を準備する人であったり、候補者も大変だけど選挙民も大変だというふうに思います。

皆さん、本当に転んだりしないように、また風邪をひいたりしないように気を付けていただきながら臨んでいただきたいというふうに思います。